

児童自立支援施設の第三者評価基準に基づく自己評価結果
(平成26年度)

自己評価結果 (京都府立淇陽学校)

1 支援

(1) 支援の基本	自己評価
① 子どもを理解・尊重し、その思い・ニーズをくみ取りながら、子どもの発達段階や課題に考慮した上で、子どもと職員との信頼関係の構築を目指している。	a
② 子どものニーズをみたすことのできる日常的で良質なあたりまえの生活を営みつつ、職員がモデルとなることで、子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている。	a
③ 集団生活の安定性を確保しながら、施設全体が愛情と理解のある雰囲気に入れられ、子どもが愛され大切にされていると感じられるような家庭的・福祉的アプローチを行っている。	a
④ 発達段階に応じて食事、睡眠、排泄、服装、掃除等の基本的な生活習慣や生活技術が習得できるよう支援している。	a
⑤ 多くの生活体験を積む中で、子どもがその問題や事態の自主的な解決等を通して、子どもの健全な自己の成長や問題解決能力を形成できるように支援している。	a
⑥ 子どもの行動上の問題を改善するために、自ら行った加害行為などと向き合う取組を通して自身の加害性・被害性の改善や被害者への責任を果たす人間性を形成できるように支援している。	a
<p>(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定員10～15名の4つの寮舎で、それぞれ、1組の夫婦が寝食を共にして指導を行う小舎夫婦制を基本として、児童と職員との安定した人間関係や児童どうしの関係を重視し、生活指導・作業指導・学習指導を指導の三本柱として、一人一人の児童の状態に応じた方法で自立を支援している。 	

(2) 食生活	自己評価
① 団らんの場として和やかな雰囲気の中で、食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、子どもの嗜好や栄養管理にも十分な配慮を行っている。	a
② 子どもの生活時間にあわせた食事時間の設定を含め、子どもの発達段階に応じた食習慣の習得など食育を適切に行っている。	a
③ 自立に向けた食育への支援を行っている。	b
(3) 衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供し、衣習慣を習得できるよう支援している。	a
(4) 住生活	
① 居室等施設全体が、子どもの居場所となるように、安全性、快適さ、あたたかさなどに配慮したものにしている。	a
<p>(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事については、管理栄養士の作成した献立に基づき、三食とも、調理職員が調理したものを各寮舎で、家庭的な雰囲気のもとで食べられるように工夫している。 自立に向けた食育への支援は、更なる取り組みが必要。 	

(5) 健康と安全	自己評価
① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気等）や安全について自己管理ができるよう支援している。	a
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
(6) 性に関する教育	
① 子どもの年齢、発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
(特に自己評価が高い点、改善が求められる点)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 養護教諭を配置し、児童の日常的な健康管理を支援している。 ・ 性に関する教育については、中学3年生を対象に養護教諭が実施。 	

(7) 行動上の問題に対する対応	自己評価
① 子どもが暴力、不適応行動、無断外出などの行動上の問題を行った場合には、関係のある子どもも含めて適切に対応している。	a
② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないように施設全体に徹底している。	a
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
(8) 心理的ケア	
① 被虐待児など心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理士（非常勤嘱託）を配置するとともに、精神科医の面接（月2回）を実施。 ・ 各種対応マニュアルの整備が必要。 	

(9) 主体性、自律性を尊重した日常生活	自己評価
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの課題として主体的に考えるよう支援している。	b
② 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念や生活技術が身につくよう支援している。	a
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の性格上、子どもの主体性を尊重した活動には、課題が多い。 ・ 退所を見据えたソーシャルスキルトレーニングはこれからの課題と考える。 ・ 京都府入所児童自立支援事業（委託先：(株)アイシーエル）を活用し、人間関係を築くコミュニケーションスキルトレーニングを5回シリーズで実施。 	

(10) 学習支援、進路支援、作業支援等	自己評価
① 学習環境の整備を行い、個々の学力等に応じた学習支援を行っている。	b
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
③ 作業支援、職場実習や職場体験等の機会を通して、豊かな人間性や職業観の育成に取り組んでいる。	a
④ 施設と学校との親密な連携のもとに子どもに対して学校教育を保障している。	a
⑤ スポーツ活動や文化活動を通して心身の育成を図るとともに、忍耐力、責任感、協調性、達成感などを養うように支援している。	a
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)	
・ 公教育の実施に向けて、関係諸機関と調整中。	

(11) 継続性とアフターケア	自己評価
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	b
③ 子どもが安定した社会生活や家庭生活を送ることができるよう、通信、訪問、通所などにより、退所後の支援を行っている。	b
(12) 通所による支援	
① 地域の子どもの通所による支援を行っている。	-
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)	
・ アフターケアについては、寮担当者を中心に実施しているが、体系的な実施とまでは至っておらず、課題が多いと考える。	
・ 25年度から専任（非常勤）の家庭支援専門相談員配置	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	自己評価
① 児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)	
・ 家族関係の調整や、子どもと家族の関係づくりについては、児童相談所と連携しながら、取り組んでいる。	

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定		自己評価
①	子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、アセスメントに基づき、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
②	アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③	自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	b
(2) 子どもの支援に関する適切な記録		
①	子ども一人一人の支援の実施状況を適切に記録している。	b
②	子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a
③	子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点) ・ 毎週水曜日の指導課職員会議で、児童の状況について、情報を共有する時間を設けている。		

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		自己評価
①	子どもを尊重した支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
②	社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の支援において実践している。	a
③	子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
④	特別プログラムなど子どもの行動などの制限については、子どもの安全の確保等のために、他に取るべき方法がない場合であって子どもの最善の利益になる場合にのみ、適切に実施している。	b
⑤	子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	a
⑥	子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2) 子どもの意向や主体性への配慮		
①	子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、支援内容の改善に向けた取組を行っている。	b
②	子ども自身が自分たちの生活全般について自主的に考える活動を推進し、施設における生活改善や自立する力の伸長に向けて積極的に取り組んでいる。	a
③	施設が行う支援について事前に説明し、子どもが主体的に選択（自己決定）できるよう支援している。	a
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点) ・ 児童の権利擁護、基本的人権の尊重については、学校の基本方針として定め、職員の共通理解を促している。		

(3) 入所時の説明等	自己評価
① 子どもや保護者等に対して、支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
(4) 権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	a
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	a
(6) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
(7) 他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「京都府立淇陽学校苦情解決に関する規程」を整備し、適切に対応するよう努めている。 ・ 意見箱を設置するとともに、2名の第三者委員に、年3回訪問していただき、直接児童の意見を聴取する機会を設けている。 ・ 権利ノートの副読本「淇陽学校で生活する君たちに」を作成し、入所時に配布、説明している。 	

5 事故防止と安全対策

	自己評価
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	c
<p>(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故、感染症の発生時には、決められた手順に従い、適切に対応している、 ・ 事例の収集や発生要因の分析、未然防止策の検討、安全確保策の定期的な評価、見直しなどについては、今後の課題。 	

6 関係機関連携・地域支援

		自己評価
(1)	関係機関等との連携	
	① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
	② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
(2)	地域との交流	
	① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
	② 施設が有する機能を、地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
	③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
(3)	地域支援	
	① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	c
	② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	c
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関との連携を密にするために、学校公開の取り組みを実施するとともに、家庭裁判所や鑑別所の職員の見学研修を受け入れている。 ・ 淇陽学校後援会あすなる会や地元の更生保護女性会と連携を図り、地域との交流に努めている。 ・ 大学生のボランティア（BBS）を定期的に受け入れている。 		

7 職員の資質向上

		自己評価
	① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a
	② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
	④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	b
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府職員としての研修体系は整備されているが、施設独自の計画は充分とは言えないため、今後の課題。 		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知		自己評価
①	法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
②	法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③	運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④	運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定		
①	施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
②	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③	事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	c
④	事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
⑤	事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点) ・ 基本方針及び毎年度の運営方針を定めているものの、中・長期計画と言える十分な内容とまでに到っていない。		

(3) 施設長の責任とリーダーシップ		自己評価
①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
②	施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③	施設長は、支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	b
④	施設長は、施設の経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	b
(4) 経営状況の把握		
①	施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	a
②	運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③	外部監査(外部の専門家による監査)を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)		

(5) 人事管理の体制整備	自己評価
① 施設が目標とする支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	a
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	a
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	a
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)	
<ul style="list-style-type: none"> 京都府全体で整備された人事管理体制のもとで、実施している。 	

(7) 標準的な実施方法の確立	自己評価
① 支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	c
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	c
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	b
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	b
(特に自己評価が高い点、改善が必要と考えられる点)	
<ul style="list-style-type: none"> 標準的な実施方法が文書化されていない。 	